

くま 「熊のしっぽ」

むかしむかし
(フィンランドの昔話)

むかしむかし、あるところに一匹の狐がいました。狐はたくさんの魚を持っていて、おいしそうに魚を食べています。そこに、熊がやって来ました。



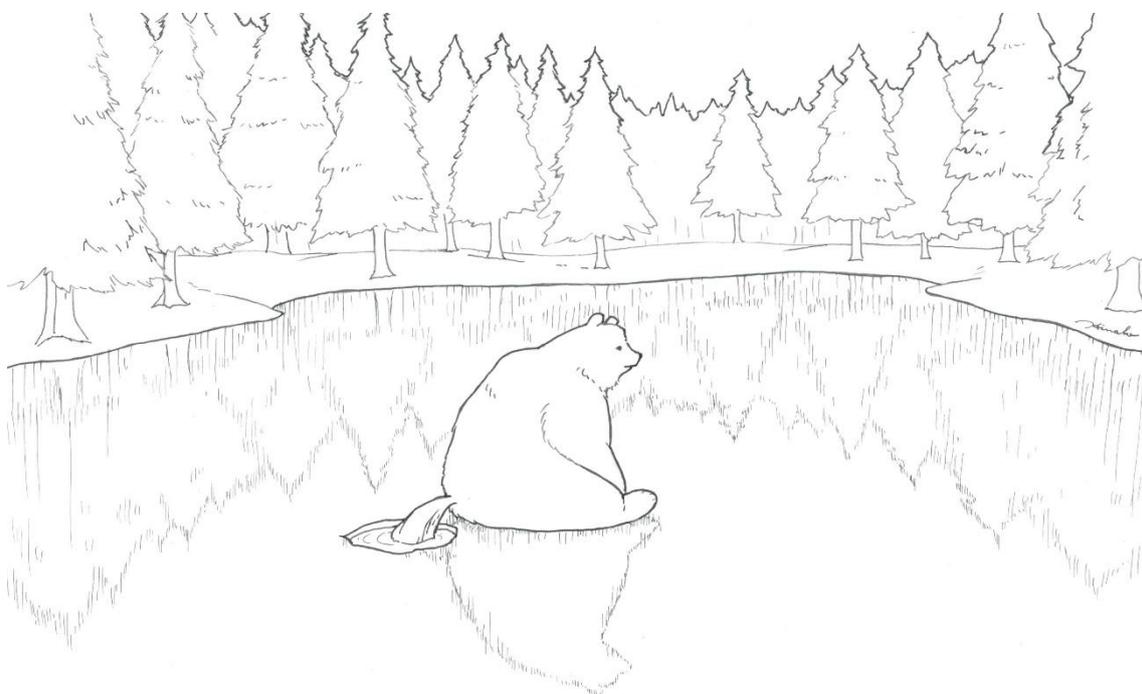
「そんなにたくさんさかなの魚をどこでとったの？」と、熊くまが言いました。

「湖みずうみで釣つったんだよ」と、狐きつねが答えました。

「どうやって釣つったんだい？」と、また、熊くまが聞きました。

「冬ふゆの夜よるに凍こおった湖みずうみに行くのさ。そして、しっぽを凍こおった湖みずうみの中なかに入れて、
一晩ひとばん待まってごらん。そうすると、たくさんさかな魚つが釣つれるよ。ぜひ、やってみて」

と、狐きつねは熊くまに教おしえてあげました。



夜よるになりました。とても寒さむい夜よるです。

熊くまは湖みずうみに行きました。湖みずうみは凍こおっています。熊くまは、凍こおった湖みずうみに小ちいさく穴あなをあけて、しっぽを水みずの中なかに入いれました。水みずがとても冷つめたいので、しっぽがチクチクします。でも、熊くまは、魚さかながしっぽをつついてるのでチクチクするのだと、思おもいました。「たくさんさかな魚つが釣つれるぞ」と、熊くまはうれしくなりました。

時間^{じかん}が経^たつと、だんだん^{みずうみ}湖^{みず}の水^{こお}が凍^{はじ}り始めました。そして、夜^{よる}の間^{あいだ}に熊^{くま}の
しっぽは、湖^{みずうみ}の中^{なか}で凍^{こお}ってしまいました。

朝^{あさ}になりました。

「もういいだろう」と、熊^{くま}は言^いいました。そして、水^{みず}の中^{なか}からしっぽ^ひを引き抜^ぬ
こうとしました。でも、しっぽ^{うご}が動きません。

「やれやれ、しっぽ^{おも}が重^{おも}すぎるぞ。本当^{ほんとう}にたくさん^{さかな}の魚^つがしっぽ^つに付^ついてい
るんだな」と、熊^{くま}は思^{おも}いました。

熊^{くま}は、もう一度^{いちど}しっぽ^ひを引き抜^ぬこうとしました。それでも、しっぽ^{うご}は動きませ
ん。その時^{とき}、熊^{くま}はわ^わかりました。しっぽ^{みずうみ}が湖^{なか}の中^{こお}で凍^{こお}ってしまったのだと。

「狐^{きつね}のやつ、俺^{おれ}をだましたな!」と、熊^{くま}は怒^ど鳴^なりました。そして、しっぽ^{つよ}を
強^ひく引^ひきました。すると・・・「ブチッ」。



なんと、熊くまのしっぽが切きれてしまいました。

それから、熊くまはしっぽが短みじかくなったということです。

(710字)

(Written by VILJANEN TOMI PETERI, VESAKOIVU JANI OSKARI)

(Edited by Toru YOSHIKAWA)

(All pictures are drawn by Hinako FUJIMURA)



この作品さくひんはクリエイティブ・コモンズ 表示 - 非営利 - 継承 4.0 国際 ライセンスひようじ ひえいり けいしょう こくさいの下もとに提供ていきょうされています。この作品さくひんを利用りようする場合は、ばあい「たどくのひろば」を出典しゅつてんとして示しめしてください。

例れい) 出典しゅつてん: 「たどくのひろば」 (<http://tadoku.info>)

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 4.0 International License. When you use this work, please indicate the source as in the example above.